

千葉県そば推進協議会 創立10周年記念祝賀会



粹蕎だより

vol. 7

発行

2014年12月5日

千葉県そば推進協議会
事務局

千葉市中央区道場北2-17-7
(株)昭和広告社内
TEL 043 (225) 4113

平成16年秋10人に
満たない人が集まって千
葉県そば推進協議会の産
声を上げ、今年で十周年
を迎えまた。

9月20日千葉市美浜区
のホテルグリーンタワー幕張の20
階のイル・デ・パンに於いて「千葉
県そば推進協議会創立10周年祝賀
会」が当協議会にご協力いただい
ている方々16名をお招きし、会員の
代表107名が出席、総勢123名
の出席者で盛大に行われました。

会は午後6、時腰原副理事の開会
の辞で始まり佐野理事長の挨拶の
後、全国麺業組合理事長の鵜飼良平
氏、信州もえぎ野の武田修氏、千葉
市長熊谷俊人氏等の御祝辞を頂き、
千葉県美術会常任理事神谷紀雄氏の
乾杯、金子専務理事の経過報告など
が行われ、三味線藤本流による民謡
房州酒つくりの唄などが行われるな
ど場内は熱気あふれる歓談のるつぽ
となつて楽しいひと時を過ごしまし
た。

御出席いただいた御来賓の方々
(順不同、敬称略)

千葉市長・熊谷俊人／日本麺類業団
体連合会会長・鵜飼良平／全麵協全
国審査員・武田修／全麵協特別審査

員・寺西恭子／全麵協特別審査員・
石川勇二／全麵協特別審査員・横田
節子／千葉県県議会議員・天野行雄
／元千葉県副知事・大槻幸一郎／千
葉県美術会常任理事・神谷紀雄／千
葉県そば推進協議会創立発起人・石
井薫夫／千葉県そば推進協議会創立
発起人・石橋映寿／全麵協監事・安
井良博／神奈川そばフォーラム代
表・田中康之／千葉手打ち蕎麦の会
会長・滝上睦明／千葉手打ち蕎麦の
会事務局長・小口弘幸／千葉手打ち
蕎麦の会監事・荒川国雄



千葉県そば推進協議会 設立10周年おめでとうございます



信州朝日村

そば処 もえぎ野 当主 武田 修

千葉県そば推進協議会の設立10周年を迎えられ誠にありがとうございます。

設立当初から関わらせて頂いた私としては、この様に躍進された推進協に接しられた事を大変嬉しく思っております。貴会が盛会に運営されて来られたのも佐野理事長はじめ、役員各位と会員各位の強い蕎麦への思いがあったの賜とご推察致します。

これから、推進協が発足するまでの経緯と信州朝日村との関わりについて少し触れてみたいと思います。

平成12年夏に佐野理事長ご夫妻他数名の皆様が信州朝日村へ蕎麦の栽培からそば打

ちを習得されたいとの意向で、ご来店されました。

ちなみに当店では平成8年より、今で言うグリーンツーリズムの一環として「そば栽培オーナー農園」を実施しておりました。関東、中京、関西等、都会からの参加者が多く、多い年には50区画、約200名を超す参加者になりました。

そばオーナーの内容は1区画50㎡の畑地に7月下旬に蕎麦の種蒔き作業、8月中旬土寄せ作業、8月末に花見、10月中旬に刈り取り脱穀作業、11月以降にそば打ち体験、収穫祭を行う一連の農業体験とそば打ち体験を楽しむ企画であります。

佐野様グループには5、6

年そばオーナーになっていたきました。蕎麦栽培は2、3年で習得されました。もう

一方の、そば打ちについては皆さん大変熱心で上達が早く、そばオーナーに参加いただいている間に全麵協の段位を取得できるまでの力をつけていただきました。

皆さんそれぞれ、段位認定会に挑戦され、信州朝日村で段位を認定された方も何人もおられます。

当時、そば処もえぎ野では全麵協「素人そば打ち段位認定会初段位・二段位」信州朝日村会を開催しておりました。審査員に、上野数そば当主鶴飼先生、北区王子越後屋当主坂場先生、信州大学教授氏原暉男先生をお願いしてお

りました。

年を増す毎に千葉県からの受験者が増え、佐野様から「認定会を実施できるだけの受験者を集めるので千葉県で大会を開催しよう」との提案がありました。

その当時から全麵協では1会員年1回に限り地域認定会を開催できるとの会則がありました。

偶然にも私共が開催していた信州朝日村認定会を平成17年10月松本で行う第2回松本そば祭り会場に移行することになりました。

よって、幸運にも推進協とそば処もえぎ野の協賛により第1回段位認定千葉県大会を平成17年10月1日に開催

することができました。初回であり、信州大学教授氏原輝男先生に審査委員長をお願いしました。寺西様、落合様、川上様にも審査員に加わっていただきました。

後日、申請中だった「千葉県そば推進協議会」が全麵協B会員に認定されました。

B会員になったことによ

り、その後は推進協独自で段位認定会を開催できるようになり、現在に至っております。

今まで、推進協では皆様ご承知の通り、毎年大勢の受験者を迎え段位認定会を開催しています。因みに全麵協では「地域認定会は、原則として2日間とし一日の受験者は1組12名で4組最大48名までとする。」との規定があります。

そういう中で推進協は、毎年規定目一杯の受験者を迎え、認定会を実施しております。この様に大きな規模で大会が続いている会場は全国でも数少ないのが現状であります。

また、会員数でも全麵協B会員の中で最も多い会員をかかえているのは推進協ではないかと思われま

す。そして、10年前までは全麵協に縁の少なかった千葉県は平成26年9月14日現在、有段者が669名、全国の中で有段者数が4番目に多い県になりました。嬉しい限りです。

そのうえ、昨年は腰原副理事長様が全国ではまだまだ少ない最高段位五段を千葉県で初めて認定されました。会員の皆様方におかれましては大変喜ばしいことであり、また一つ目標ができたのではないかと思います。

会員の皆様、これから今まで培ってきたそば打ちの技量をぜひ地域貢献と地域活性化に役立てていただきたいと思っています。

そして、最終目標を提案させていただくとすれば、千葉県内で「日本そば博覧会 in 千葉」を開催して、千葉県全体をそばで盛り上げていただきたいと思っています。

それには、千葉県内での全麵協B会員さんと連携を図り、全国的全麵協会員の協力を得、行政の支援を受け、3日間で10万人を超すイベントになるよう、努力されることを願います。

最後に、推進協の皆様がそば打ちを通して、いつまでもご健康で過ごされますようお願い致します。

創立10周年に向けて

(一社) 全麵協東日本支部長
NPO法人そばネット埼玉代表理事



阿部 成 男

催で開催してきた三段位大会も3回目となります。

さらに、全日本素人そば打ち名人大会選手権関東予選千葉大会や新規事業として第1回千葉県団体迷人戦大会を開催するなど、会員のニーズに適切に答えていることが発展の成果になっています。

私たちはそば打ち愛好家は、まずは、自らそば打ちを楽しみ、打ったそばを家族や友人に食べていただきながら、その輪を広げていきます。

その結果が、そば打ち愛好団体の誕生になり、その愛好団体の連携が千葉県そば推進協議会となってきたものだと思います。

したがって、現在の私たちは「趣味の手打ちそば」から、日本の伝統食文化である「手

打ちそば」の『伝道師』と発展していると言えるかもしれません。

昨年12月に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、「食の無形文化遺産」とは、単なる料理のことを指すのではなく、料理技法から、食器、しつらい、装い、ふるまいなどすべての工程を含んでいるのだそうで、「手打ちそば」は日本各地域ごとに打ち方も、食したくも独特の文化が継承されてきて、正しく「和食」の代表格だと私は思っています。

さて、私たち団体が属する全麵協も昨年設立20周年となり、この5月に「一般社団法人全麵協」として新たなページを開きました。

貴推進協議会も東日本支部の役員として支部事業を支えていただいており、これからも、支部の活性化のため、全麵協の発展のため引き続きご尽力を賜りたいと存じます。

ところで、私の所属するNPO法人そばネット埼玉も貴会の1年後に設立して来年で

10周年となり、おかげさまで、福島から長野県まで7県にまたがり、32団体で傘下会員総数1300人を超えるまでに成長しました。

現在でも弊社法人の事業に貴推進協議会会員が参加いただくなどの交流もありますが、今後は一層の交流を推進していくことにより、関東におけるそば打ち愛好団体の大きな輪(和)が広がっていくことにもなるのではと大きな期待を寄せています。

千葉県そば推進協議会のますますのご発展をお祈り申し上げます。











千葉県そば推進協議会の沿革

専務理事 金子 忠 靖

平成12年の春二人の男が「長野県の方でソバ栽培のオーナーを募集しているが、やってみるか」と相談しておりました。

二人の男、それは石井薫夫（しげお）さんと石橋暎寿（てるひさ）さんです。これが後に誕生する千葉県そば推進協議会の最初の一滴になったのです。そして、この時にソバ栽培のオーナーを募集していたのが、長野県朝日村もえぎ野の武田修さんです。

このお二方が周囲の方々をお誘いしてもえぎ野でソバ栽培のオーナーとなって、武田修さんと親しくなり、平成15年にもえぎ野の武田さんのところで行われた段位認定会では石井薫夫、石橋暎寿、腰原好さんが初段に認定されました。

その後16年には千葉から

座間利夫さん（初段）、腰原好さん（二段）らが、もえぎ野で行われた段位認定会で段位を取得されました。

これに弾みを得て平成16年に当時佐野さんのお店に集まっていた人達（おぐらの会）や、すでにもえぎ野で段位を取得した人達らが集まり「千葉で段位認定会を行ったら40人ぐらいいは集まるな」と話が盛り上がり、運営組織を設立しようと考え、加盟6団体で発足し、もえぎ野の当主である武田修さんが「千葉県そば推進協議会」と命名され、当協議会が誕生したのであります。

この時から千葉で段位認定試験を開催する活動が始まりました。

誕生まもない推進協は当然のことながら全蕎協の会員にはなれず、したがって認定試

験を行うことはできません。

平成17年9月主催千葉県そば推進協議会主管長野県もえぎ野、として千葉市中央区宮崎のJFEみやざき倶楽部を会場として千葉における第一回の初二段位認定会を行うことが出来ました。受験者は二段位7名、初段位38名でした。

これは千葉における手打ちそば普及に大きな旋風を起こしました。この試験を契機に、17年末頃から寺西恭子さんが千葉で技術指導を頻繁に行って下さった事などもあって、千葉での手打ちそばブームは遠達の火の如く広まっていったのです。推進協はここで全蕎協B会員になるべく申請を出しましたが、なかなか許可が頂けません。原因は今日でも闇の中です。

其の後B会員の許可を頂きまして、18年9月第2回の段位認定試験を行うこととなりましたら、急きょ全蕎協の会則が変更になりました。B会員に許可後1年以上経過をしなければ認定試験を許可しない

ことになりました。

したがって第二回目も一回目と同様に千葉県そば推進協議会が主催、長野県のもえぎ野が主管、という事で認定会を行いました。

以後順調に発展し、加盟団体も25を超え落合輝美さんのお力添えを頂き平成19年9月15日に福井そばルネッサンス推進実行委員会の全国素人そば打ち名人大会第一回関東予選千葉県大会を開催。引き続き9月22〜23日に第三回初二段位認定会をするに至りました。

21年4月千葉県そば推進協議会は現在の理事長制に組織体制を改め、千葉市民の方々にもっと手打ちそばを知ってもらおう意を込めて21年9月の第三回名人戦千葉県大会の会場を千葉市の中心にある「きばーる」に移して、さらに22年には段位認定会も「きばーる」に移して広く一般の人へ手打ちそばをアピールしたのです。

平成24年にはそれまで比較的疎遠であった千葉手打ち

蕎麦の会との友好的協調関係が確立、同年に行われた第一回千葉三段位認定会、シニヤマスターズ千葉県大会を共催で開催致しました。

これが契機になって、この二つの会の友好的協調関係はさらに深まり、将来大千葉連合体として手打ち蕎麦技術の普及と発展に大きな力となるであろうと思われるのです。

平成25年初段位二段位三段位の認定会、名人戦予選会を開催、又県内各地で研修会を開催するなど、活発な活動が続けています。

現在千葉県の段位認定者数は669名（26年7月）で全国第4位です。平成16年4月現在千葉県の段位認定者が11名だったことを思うとまさに大飛躍で有ります。

ちなみに第1位は北海道2792名、2位長野702名、3位大阪695名、5位埼玉622名、6位栃木612名、7位福島554名、8位兵庫463名、9位茨城441名、10位福井425名の順です。